



いぶき（GOSAT）後継機の開発体制の強化等

平成27年度補正予算額
210百万円

イメージ

データ処理能力の 高速化



スーパーコンピュータの
ストレージ増強

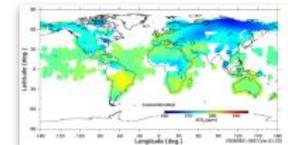


精度検証・モデル開発・実証



打ち上げに
向けた
着実な
技術開発

観測データの 処理技術高度化



データ精度の向上・
打ち上げ後の迅速な
データ提供の実現

背景・目的

- 世界初の温室効果ガス専用の観測衛星である「いぶき」は平成21年の打ち上げ以降、順調に観測を続けており、全球を多点かつ精度良く観測し、陸上観測の空白域を大幅に減らし、通年での観測による全球温室効果ガス吸収・排出量の把握により世界に大きく貢献している。
- 2015年1月に策定された「新宇宙基本計画」では「いぶき」後継機の平成29年度打ち上げに関する記述がされ、2015年3月に米国と締結した覚書にも「いぶき」後継機のミッション協力について記載されている。
- 気候変動の科学の理解、地球環境の監視、REDD+等の気候変動関連施策に対し貢献する我が国の国際社会における役割を継続的に果たすため、平成29年度打ち上げを目標として「いぶき」後継機を開発する。
- 補正予算では「いぶき」後継機の着実かつ遅滞のないデータ処理のため、**処理・解析システムの増強・機器の整備を実施する。**

事業目的・概要等

事業概要

衛星データの処理・解析システムの増強 等 (210百万円)

事業スキーム

委託対象：民間団体等
実施期間：平成27年度（開発・打上：平成24年度～平成29年度、6年間）



期待される効果

- いぶき後継機の打ち上げに向けた開発を進めることにより、後継機での全球的な高精度・長期連続観測の実施、都市単位での人為起源の温室効果ガス排出源の特定、及び気候変動に関する長期的な監視情報の提供を達成する。
- 「いぶき」後継機の観測データは現行機より増加することが見込まれるが、補正予算で処理・解析システムの増強等を行うことにより、打ち上げ後の後継機の高度かつ迅速なデータ利用が初めて実現する。

後継機開発・年次計画（予定）

事項 \ 年度	H26	H27	H28	H29	H30～
～GOSAT-2の開発～					
・バス開発					
・ロケット開発					
・搭載センサ開発					
・地上システム整備					
～データ処理技術の高度化～					
・衛星データ処理・解析システム増強・データ精度向上					
～総合試験～					
・地上/衛星システム総合試験					
～GOSAT-2の運用～					
・後継機の運用					

打ち上げ